

鬼瓦 のルーツを尋ねて 韓国へ (29)

前橋市 富山 弘毅

私を救ってくれたのは、神様でも仏様でもありませんでした。

前橋にお嫁に来た梅田玉姫（金玉姫）さんの重ねての要請を受け止めてくれた韓国の親切な庶民のおかげでした。訪韓 6 日目、最終日の「鬼瓦のルーツをたずねる旅」は、収穫の多いものとなりました。

通訳は小学校の日本語教師

何よりもありがたかったのは、新しい通訳が付いてくれたことです。

予定を差し繰って 6 日間連続で車を出し、運転してくれた金在煥（キムチェハン）会長と全美貞（チョンミチョン）事務局長といっしょに、ソウルに向かって出発した私の隣に、原州（ウォンジュ）の街中から乗り込んでくれたのが若い女性通訳・金桂華（キムケーハ）さんでした。



一日通訳をしてくれた金桂華さん（ユグムワダン博物館の庭で）

下のお子さんが金会長の経営する幼稚園（武陵博物館と併設）に通っている縁で、1 日通訳を頼み込まれたとのこと。彼女は原州市の公立小学校で、日本語の教師をしています。1 年生から 6 年生までの全学年で、それぞれ週 1 時間ずつ、日本語を教えているのです。どこの学校でもやっているのではなく、日本で言えば「文部科学省モデル事業の指定校」なのでしょう。

良い授業をするため、インターネットで

日本の童話を入手したり、パソコンで動画を使って教材を作成したりしているそうで、いわば新しい日本語教育のパイオニアではないかと思われます。

「東京へ語学研修に行った」という彼女は、いま江陵原州大学校の大学院にも通って日本語を学び続けています。同大学には 2～3 人の日本人学生もいるそうです。速記士の夫と共働きし、子育てしながら、すごいバイタリティです。

そんな彼女も、鬼瓦に関心を持ったことはなさそうでした。日本語の達者な彼女のおかげで会話を弾ませて 1 時間半。車はソウルのご真ん中、大統領府のある青瓦台近くの住宅地・付岩洞に入りました。

圧巻！ ユグムワダン博物館



ユグムワダン博物館 入口のプレート



ユグムワダン博物館

一方通行の狭い坂道に入ってたどり着

いたのが、小さく控えめな看板しか出ていない「ユグムワダン博物館」でした。2008年にできたばかりの、こじんまりとした、超専門的な「瓦博物館」で、あたかも「興味のある人だけが知っていればいい所ですよ」とつぶやいているかのようでした。



博物館職員のみなさんと

この博物館を訪れることができたのは、最大の収穫の一つでした。柳昌宗（ユ・チャンジョン）韓国瓦学会会長（現在名誉会長）が、その収集品を展示するために設立したもので、韓国に古瓦専門の博物館は他にないようです。

展示室は2つあり、一つが柳氏の収集した中国、朝鮮の古瓦、もう一つは妻・琴基淑（グム・ギスク）さんの収集した陶俑の部屋です。夫妻の姓の「柳」と「琴」をつなげて柳琴（ユ・グム）瓦当（ワダン）博物館と命名したそうです。

柳昌宗氏寄贈の古瓦は、日本人研究家の井内功氏寄贈の古瓦とならんで、ソウルの韓国国立中央博物館の目玉として特別展示室に並べられています。

私は2004年、中央博物館を最初に見学したとき、井内功と柳昌宗の特別室の展示品の豊かなことに驚くとともに、いったい、お二人はどういう方なのだろうかと関心を持ちました。

井内功氏（1911-92）は、井内古文化研究室を開き、名著『鬼面紋瓦の研究』（1968）を数人の研究家とともに著した、古瓦研究の日本の権威です。この本は、半世紀前に出版した時の定価が1万2千円で限定版。入手できませんでしたが、国会図書館で先日、感動をもって拝読しました。

柳氏はもともと検事（現在弁護士）で、忠州地庁に赴任していた1978年、三国

時代（BC.1～AD.7）の古瓦を見て、瓦のとりこになったそうです（2008年4月「朝鮮日報」）。忠州は百済、高句麗、新羅三国の文化が混ざり合う地域で、それが瓦にも現れていることを知り、収集を始めました。2002年9月には「柳昌宗法務部法務室長がアジア各地の瓦磚（がせん＝かわら）1,800点を国立中央博物館に寄贈した。中原高句麗碑の発見者でもある」と「聯合ニュース」が報道しました。

すべてが「重文」級の逸品

新しく建て替えられた現在の韓国国立中央博物館では、以前と比べてこの2人の特別展示室はかなり狭くなり、展示品もそれぞれ10数点と少なくなってしまいました。柳昌宗氏が寄付したのが1,800点ですから、中央博物館の後援会長をしながらも自分の博物館をつくりたいと思うのも自然かもしれません。



ユグムワダン博物館 展示 鬼面紋磚
六朝 AD222～588 江蘇省 南京



ユグムワダン博物館 展示 鬼面紋瓦当
南朝 AD420～588 江蘇省 南京



ユグムワダン博物館 展示 鬼面紋瓦当
北魏 AD386~534 河南省 洛陽 (舌出し鬼)



ユグムワダン博物館 展示 鬼面紋瓦
北朝 AD386~581 未詳

ユグムワダン博物館には、中国と朝鮮の古く見事な鬼面瓦も多数、展示されていました。日本に瓦というものが入ってくるはるか以前のものと思われる鬼面の軒丸瓦も多くあり、まさに圧巻でした。



ユグムワダン博物館 展示 鬼面紋瓦
高句麗 BC37~AD668



ユグムワダン博物館 展示 鬼面紋瓦
東魏~北齊 AD534~577 河...



ユグムワダン博物館 展示 鬼面紋瓦
北朝 AD386~581 未詳



ユグムワダン博物館 展示 鬼面紋瓦
東魏~北齊 AD534~577 河北省



ユグムワタン博物館 展示 鬼面紋瓦
東魏一北斎 AD534~577 河北省



ユグムワタン博物館 展示 鬼面紋瓦
統一新羅 676~935

すべてが「重要文化財」といってもいいようなものです。感激です。拍手喝采です。

日本の瓦資料館・美術館は

日本にも瓦の資料館・美術館はあります。

【高浜】愛知県三河地方の三州瓦は瓦の生産量日本一といわれますが、その高浜市に1995年開館の「やきものの里・かわら美術館」があります。鬼瓦もいくつか展示され、瓦の歴史、技術などを紹介、陶芸教室もしています。近くに「かわら公園」ともいふべき森前公園、「鬼みち」散策コースなどもあって、人気スポットです。

【近江八幡】滋賀県の八幡瓦の産地・近江八幡市の「かわらミュージアム」は、鬼瓦を屋根に載せた白壁の蔵などユニークな施設で、市が町づくりの拠点に位置づけています。やはり1995年の開館です。

【菊間（今治）】愛媛県今治市に1997年建設の「菊間町かわら館」があり、玄関までの導入路に多様な新作鬼瓦が並んでいます。菊間瓦の歴史と伝統を紹介し、名工鬼師の貴重な作品や、ヒロシマの被曝瓦も展示。瓦作り体験もできます。

【三豊】香川県三豊市の「宗吉かわらの里展示館」は、7世紀中ごろから8世紀前半に瓦を生産し藤原京に使用した24基の瓦窯跡（国指定文化財）を保存展示するもの。この種のものはいくつかあって、地道に保存活用の努力をしています。

分散している日本の瓦

これら日本の瓦資料館・美術館は、その地元の歴史的伝統的産業としてのかかわりに重点を置いたもので、広く日本中、世界中に視野を置いたものではありません。瓦の逸品をたくさん収集する力もなく、瓦の全貌を研究する学者を集めてもいません。

文化財である古瓦は、日本各地の博物館、美術館、資料館、大学、寺院などが少しずつ持っています。天理大学（天理市）、書写山円教寺（姫路市）、日本の鬼交流博物館（福知山市）などでは、鬼瓦をたくさん保存しています。全部合わせれば膨大ですが、しかし現状は、バラバラです。

それらの一部を一つのテーマで集める「瓦展覧会」がときたま催されますが、それでもごく一部です。そして、それらを網羅するような図版が出版されているわけでもありません。それを必要とする学者、研究家が少ないのでしょうか。

日本の瓦文化を集大成するには、国家予算をくみ、学者・研究者を結集する大プロジェクトが必要でしょう。それを実現させて、国立瓦博物館をぜひとも造らせたい。それが私の夢です。（つづく）